

# キャリア教育実践事例

伊那市立東春近小学校 西村 大気

## 『外国の小学校とオンライン交流しよう』

相手校：ニートゥラフデン小学校（フィンランド北カルヤラ県ヨエンスー市）

### はじめに

今年度もコロナ対応とともにスタートを切りました。結果的に一年を通して学校生活や教育活動は変更や中止、縮小を余儀なくされましたが、そんな中で目に留まったのが伊那市地域おこし協力隊から持ち掛けられた「国際交友企画」でした。伊那市とフィンランドの北カルヤラ県は協定によって様々な分野で協力関係あり、このような時だからこそ小学校でも交流の機会をもってみようという新しい試みでした。先行実践はなく相手校も未定というゼロからのスタートだったため、出足こそ鈍かったものの、活動の見通しが立つと子ども達は自分たちで活動を進めていけるようになりました。「職業観・勤労観を育む学習プログラム」として位置付けたものではありませんが、適宜キャリア教育の視点からも捉え直し展開してきた本活動を実践事例として報告させていただきます。

### 活動

#### ① 事前交流 「学校紹介をしよう」

まず、はじめにお互い「学校紹介」をしました。自分たちの学校生活や周辺の様子、伊那市の位置関係や季節の紹介などについてです。「自分たちのことをフィンランドの人たちに紹介する」という目的がはっきりしていたため、子どもたちの取り組みはとても意欲的でした。

話し合っテーマを決めると、すぐグループに分かれてタブレットで文章作成や写真撮影などに取り組んでいました。共同作業をしながら、写真や文字データをPDFファイル化するところまで、子ども達は見通しをもって仕上げていきました。

学校紹介にあたっては、ちょうど次年度への引き継ぎをしていく委員会活動を振り返ることになりました。自分たちが自分たちの学校生活をより良くするために日々活動してきた軌跡をみつめ直す良い機会にもなっていました。



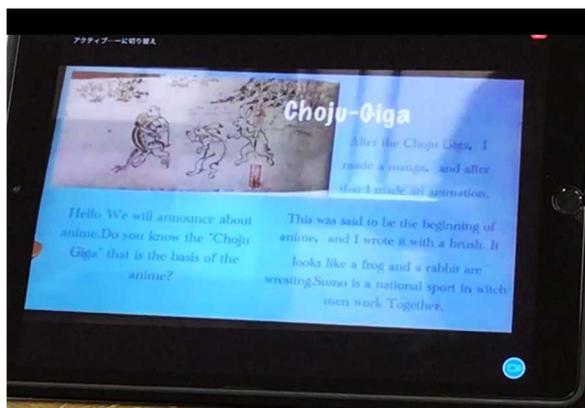
[学校紹介：各委員会活動については自然と力が入っていました]

## ② オンライン交流1回目「自分の好きなことから、日本文化を発信しよう」

1回目の交流では、日本側からは国語の学習「日本文化を発信しよう」と関連させて、それぞれが自分の好きなことを通してそれを発表しました。

### <日本からフィンランドへ紹介したことの例>

- ・ 伝統行事・四季・文学・アニメ・寿司・和菓子・伝承遊び・古典芸能・スポーツ等



### ③ オンライン交流2回目「聞いてみよう。そしてお互いのことをもっと知り合おう。」

2回目の交流は、事前交流のお手紙や1回目の発表を聞いて疑問に思ったことを質問したり、それに答えたりする時間を設けました。

#### ＜日本からフィンランドへの質問の例＞

- ・「フィンランド語」の授業ではどんな勉強をするのですか？
- ・サウナによく入るといっていますが、それは子ども達も同じですか？
- ・フィンランドの伝統芸能と言えば、どんなものがありますか？
- ・日本といえば、どんなイメージですか？
- ・人気のある授業は何ですか？「宗教」の授業はどんなことをするのですか？
- ・ムーミンの他には、どんなアニメがありますか？
- ・ふだん、何をして遊んでいますか？・・・など。

交流の終わりはお互いにクラフトを作る計画でした。時間の関係で折り紙の手裏剣を作るだけになってしまいましたが、楽しい時間を共有し、別れを惜しむように Zoom から退出する子ども達でした。



たった2回のオンライン交流。短い時間でしたが、それでも少しずつ子ども達が打ち解けていく様子がありました。子ども達の持つ力を見せつけられた思いです。

この後、お礼の手紙を送り合って活動は終了となりますが、今後も、希望すれば連絡先を交換し合って子ども達は交流を続けられることになっています。

## 子ども達の感想から

### ① 事前交流を終えて、オンライン交流に向かう子ども達の思い

＜他教科との関連から抜粋＞

国語：日本文化を発信しよう 社会：日本とつながりの深い国々

Aさん

世界には色々な国があって、どの国もそれぞれ違う特色があるのがすごく面白いと思いました。日本と似ている国も、全然違う国もあって、でも、同じ人間が住んでいるんだと思うとなぜか嬉しかったです。でも、同じ人間だけど、顔も名前も知らない人の方が多いから、世界はとても広いんだなと思いました。日本のこともたくさん知ってほしいし、フィンランドのこともたくさん知れるようにしたいです。相手に日本って楽しそうだなとか、住んでみたいなとか、思わせられるように、日本の良いところをたくさん教えたいです。

Bさん

もっと変わった生活をしているのかなあと思っていたので、日本と似たような生活でびっくりしました。でも、変わっているところも色々あり、とても面白いなと思ったり、もっと調べてみたいと思いました。交流する目的は、一番は「楽しむこと」だけど、日本をよく知ってもらったり、私たちもフィンランドのことをよく知ったり、変わったところや趣味の話をしたりしてお互いのことを知れるような交流にしたいです。

Cさん

同じところだけでなく、違うところも理解していけたらいいなと思います。国同士で様々な問題があるけれど、お互いの意見や文化を尊重し合っていけたら良いです。相手の国だけでなく、自分の国のこともしっかりと知ることが大切だなと思いました。お互いの国をもっと深く知れるような交流にしたいです。フィンランドの文化や習慣などを理解していくと同時に、日本の文化なども伝えられたらいいなと思います。社会で学習したように、違うところも同じところも大事にして交流していきたいです。

### ② オンライン交流を終えた子ども達の思い

＜職業観・勤労観を育む学習プログラム《4領域8能力》の観点から抜粋＞

Dさん

私はマンガが好きなので鳥獣戯画をもっと調べようという気持ちになったけど、紹介することで日本らしさのようなのが前よりも分かってきた気がする。けどもっと日本のことを教えたかった。発表するときに、しっかり聞こえていたか不安だったけど、話せてよかった。《人間関係形成能力》自他の理解能力 コミュニケーション能力

Eさん

和菓子は好きだからよく食べていたはずですが、ちゃんと紹介しようとする、たくさん調べなければ分からなかったことばかりでおどろきました。知らないことがたくさんありました。タブレットでみんなちがうことをみつけてきたので、まとめるのが大変だったし、最後は時間の関係で短くなっちゃったけど、いい発表ができてよかったです。

《情報活用能力》 情報収集 探索能力

Fさん

フィンランドの人たちは英語がペラペラだったけれど、ぼくはあまり英語がしゃべれず、このままだと将来、外国の人たちと仕事した時に会話がなり立たないので、もっと英語をがんばろうと思った。《将来設計能力》役割把握・認識能力 計画実行能力

Gさん

わたしは英語に苦手意識があるので、質問するときにはできるかどうか不安でしたが、自分から「やる」となれたので良かったなあと思います。先生に助けてもらいながら最後までやることができほっとしました。価値観とか意見とか文化とか、いろいろなものがちがうからこそ、もっと話したくなったというか…。大人になったらもっと英語が話せるようになりたいです。《意思決定能力》選択能力 課題解決能力

## おわりに

キャリア教育の観点も取り入れながら展開してきたこの活動は、冒頭にもあるように、コロナ禍対応の中から始まったものでした。あれができない、これができないという残念な空気が漂いそうな中、それを吹き飛ばすような「ワクワクする何か」を求めて、子どもたちとともに模索しながら活動を作ってきました。

「海外の友人と出会うこの素晴らしい機会、この記憶はずっと子ども達の心に残ることでしょう。この先も友情を育んでくれる子ども達がいるといいですね。フィンランドの子ども達にとって、きっとあなたたちのことは『折り紙の達人』として忘れることはありません。ありがとうございました。」「もし来年も日本の皆さんが参加してくれるなら、ぜひ参加するよう先生に勧めようと思っています。来年はもっと簡単にできるはずです。私たちはそのモデルを示しました。」

これは相手校の校長先生から届いたメール文の一部です。時差や、解釈の違いなどによる意思疎通の難しさがあったり、休校によるスケジュール変更等、課題が次々と起こったりしました。地域おこし協力隊の方々のお力もお借りして、なんとか一つのモデルを示せたことの意味は確かにあったと思います。貴重な機会を頂き有難うございました。

しかし、制約が多い中でもなんとかやれることはないか、と粘り強くその対応を子ども達と模索してきた時間こそ、実は「子ども達のキャリアに通じるもの」だったのではないかと今では思っています。この意味において、日々の学校生活の中にも「キャリア教育」は存在していました。

コロナ対応をはじめ見通しの効きにくい昨今ですが、このことを私自身の一つの学びとして、今後もキャリア教育に向き合っていきたいと思います。